



いずみ

第228号〔令和5年3月5日〕
コミュニティ情報

<https://fukuizu.org>

ホームページ、リニューアルしました



発行／永福和泉地域区民センター協議会
☎ 03-5300-9412

神田川沿いの散歩はいかがでしょうか

●東運寺 方南 2-5-4



●東運寺付近



●神田川取水口



●和泉熊野神社 和泉 3-21-29



●龍光寺 和泉 3-8-39

境内にある八十八ヶ所和泉霊場は土日・祝日のみ開場



頭の 体操

各番号のところに縦に答えを入れてください。

- ①性質や人柄がさっぱりしていてこだわらないさま。
- ②結句のところ。終わり。結果。
- ③物事の区切り。限界。～が明かない。
- ④自分の利益、財産。～を肥やす。
- ⑤出世魚。照り焼きも美味いね。
- ⑥袋田、白糸、吹割が有名。

緑色の枠内の文字をつなげて。

	②				
①			④		⑥
き	げ	③	し	⑤	た
		ち		り	

答えはこの字のどこかに…

【新型コロナウイルス対策のお願い・注意事項】

◆各種事業にご参加・ご来館の際は新型コロナウイルス対策へのご協力をお願いいたします。◆発熱のある方、体調不良の方はご参加・ご来館をお控えください。◆今後も感染状況・天候によっては、内容・人数変更や開催中止となることをご了承ください。

◎定期総会のお知らせ◎

令和5年度定期総会を下記の日程で開催いたします。

【日時】2023年(令和5年)4月27日(木)13時30分～

【会場】永福和泉地域区民センター 第1～3集会室

【議事】①令和4年度事業報告及び決算報告 ②令和5年度事業計画及び予算案 ③その他

*新型コロナウイルス感染状況により変更・中止となる場合がございます。

永福和泉地域区民センター協議会 会長 山本 松江



わが・まち・あるき



～ 東京都立中央ろう学校(後編)～

*聴力 (dB) を意識してみる、例えば 60dB

ろう学校入学者は、「両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能または著しく困難な程度のもの」と学校教育法施行令で定められていて、デシベル (dB) は音の大きさを表す単位で、難聴の程度を表しています。

例えば、25dB の難聴の人は、木の葉の擦れ合う音 (25dB) が聞こえにくかったり、全く聞こえなくなったりします。上記に示す 60dB の難聴は、約 1m離れた大声が聞き取れない・多人数での会話が難しい聴力レベルになります。前編で紹介した情報保障授業や聴能支援の学校生活の中、後編は、姫野滋子副校長から生徒の聞こえとコミュニケーションについてご説明していただきます。

*十人十色のコミュニケーション

「在校する中高生の聞こえが、ある程度の音声聞き取れる、ほとんど音をキャッチできないなど様々な事から、コミュニケーションの方法も多岐にわたります。手話でコミュニケーションをする生徒もいれば、補聴器や人工内耳で音を聞き、手話はあまり使わずに音声でのやり取り中心の生徒もいます。相手によって音声と手話のコミュニケーション方法を切替えたり、本校入学前は地域の通常の小中学校に通学していて、手話を全く知らずに本校に入学する生徒もいます。

生徒一人一人の環境・聴力レベルによるコミュニケーションの多様化は、言語である手話をはじめ、非言語である身振り・表情・相手との距離など、コミュニケーション(ノンバーバルコミュニケーション)も自然と活用されていますが、大切な共通ツールの一つは「日本語」です。文字で書かれた情報を得て、文字で考えを表現することは、大学入試や大学進学後、将来の就職にも必要な力となります。

本校では、読むこと・書くことを大切に、手話、文字、絵や動画などの情報保障を丁寧に行っています。

*最後に

本校の生徒は「silent=静か」ではありません。笑ったり泣いたり、部活に燃えたり、テストの結果に悩んだり、喧嘩をしたりする、青春真っただ中の中学生、高校生です。ろう学校の生徒たちのことを少しでも知りたいと思っていただければ幸いです。

現在は中止しているボランティア養成講座「はじめての手話」や、三つ葉祭に皆様にご来校いただける日を楽しみにしております。



中学部バレーボール部部活中



中学部野球部部活中

東京都立中央ろう学校 下高井戸 2-22-10





方南地域区民発表会@区民センター 募集のお知らせ



*作品展示（絵、写真、書、手作り作品など）

*ショータイム [ダンス・演奏・その他のパフォーマンス] ※1団体10名以下、20分以内

【開催日時】：令和5年6月18日（日）10時～15時

【会場】：永福和泉地域区民センター

【対象者】：方南区民集会所を利用しているグループまたは周辺地域にお住まいの方（業者出店は不可）

【申込方法】：往復ハガキに「方南地域区民発表会参加希望」と明記の上、団体・グループ名、代表者名、住所、電話番号、展示内容（絵、写真、書、手作り作品など）、出演内容（ダンス、演奏、パフォーマンスの発表は1団体10名以下、20分以内）、参加人数・必要備品などをできるだけ詳細にご記入ください。応募多数の場合は抽選となります。参加される皆様には後日、説明会のご案内を送付いたします。

【締切】：令和5年4月10日（月）必着

【問合せ・申込先】：〒168-0063 杉並区和泉 3-8-18 永福和泉地域区民センター協議会

電話 03-5300-9412（受付時間 9時～17時 土日祝日を除く）

※申込みは事務局窓口でも受付をしております。その際は、普通はがき（63円）をお持ちください。

※なお、新型コロナウイルス感染状況等により変更する場合がありますことをご了承ください。



防災倉庫を見よう 防災関係まとめ 前編

いずみ220号から続けて掲載している防災関係のまとめを今号と次号でお届けします。

これまでは主に防災倉庫に備蓄されているものや防災MAPについてのお知らせと、杉並区役所防災課のお仕事を取り上げてきました。

防災倉庫は必ず震災救援所に併設されています。震度5以上の地震が発生した際に震災救援所が開設されます。在宅で避難生活をされる方は在宅避難者登録をすることで、倉庫にある物資を受け取る事ができます。

今回は、救護活動の拠点となり、防災倉庫の管理をしている「震災救援所」についてお伝えします。

震災救援所

震災救援所の運営は、平常時から運営体制の検討や、訓練等を計画・実行しており、震災救援所運営連絡会（町会・自治会、防災会、区職員など）が中心となって行っています。震災救援所運営連絡会は「震災救援所運営管理の基本方針」のもとに組織され、メンバーは、庶務・情報部、物資等配給部、救護・支援部、施設管理部の4つの部に分かれ、随時、区の運営管理本部からの情報のアップデートをし、地域での訓練で実践をして震災に備えています。

しかし、地震が起きたときは、運営スタッフも含め、被災した地域の全ての人が被災者となります。このため、皆様の生活の場となる震災救援所の運営や救護活動においては、運営スタッフと避難者・在宅避難者がお互いに協力する必要があります。

もし、大地震が発生し、震災救援所に避難したら、どのような協力ができるのか、普段から考えたり、学んだりすることはどの地域にお住まいの方にも必要になります。

広報誌いずみの配布されるエリアには11の震災救援所があります。お近くの震災救援所が避難先の目安となります。

小学校……永福小学校、大宮小学校、済美小学校、高井戸第三小学校、
浜田山小学校、方南小学校

中学校……大宮中学校、向陽中学校、泉南中学校

小中一貫校……杉並和泉学園

その他……旧新泉小学校

震災訓練の様子▶



震災救援所では、それぞれの地域の運営スタッフと区で毎年震災訓練を実施しています。現在はコロナの感染状況によって、規模を縮小したり、訓練内容を変えたり、参加者を限定している所もありますが、お近くの震災救援所について、運営スタッフ（町会・自治会、防災会）にお尋ねいただいたり、区のホームページで検索するなど、いつ来るか分からない震災に対する準備をしっかりと行い、「自助」「共助」の力を蓄えていける地域となるよう願っています。

休館日カレンダー ①永福和泉地域区民センター ②方南区民集会所 ③下高井戸区民集会所 ④方南会館

3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1 方	2	3	4
5	6	7	8 永	9	10	11
12	13	14	15 永方下	16	17	18
19	20	21	22 永	23	24	25
26	27 会	28	29	30	31	

4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5 方	6	7	8
9	10	11	12 永	13	14	15 永
16	17	18	19 方下	20	21	22
23/30	24	25 会	26 永	27	28	29



協議会紹介パネル展示中

区民センター2階和風ロビーで
パネル展示を行っております。
是非お立ち寄りください。
協議会の活動を紹介している
リーフレットは玄関ホールにあります。
目を通していただけたら幸いです。



文化講座へようこそ

【東洋大学講師派遣事業】 日本列島一文学文化風土の旅一

令和4年12月10日(土) 永福和泉地域区民センター

東洋大学名誉教授 竹内清己先生を講師に迎え、古代武蔵野から近代東京にかけて築かれた文学風土の旅を机上で楽しみました。作家がその土地各々の風土を作品に織込むと同時に、風土が来訪する作家に執筆させて作品を通して自己表現をする構造が、杉並に縁のある豊富な作品を例にあげながら紐解かれました。参加者からは「井伏鱒二の作品を読んでみたくなった」「日本文学の中での武蔵野や杉並が果たす役割が興味深かった」など、井伏鱒二が杉並に転居後、中央線・総武線直通運転開始、阿佐ヶ谷会誕生への流れに集約され、風土と作家が互いにその時代や慣習の影響を作品に投じてゆく時代の文学を感じました。



藍の1年～振り返って～

いずみ第223号から第226号まで杉並区立郷土博物館の「藍」にお付き合いいただきましてありがとうございました。

いずみ第223号での「今年の春も藍の種まきをしました」から始まって、第224号「郷土博物館古民家の藍、育っています」、第225号「藍 きれいに染まりました」、そして第226号「藍・秋 古民家の庭に咲く薄紅色、藍、穂状の小花たちは種へ」と藍の一年を見つめてきました。

博物館の学芸員さんによると、杉並区で「藍」の栽培が盛んであった理由には、藍染めした布が丈夫であることや、虫除けや消臭に効果があること等、多種の効用があることがあげられるとのことでした。

採種した藍の種30袋を用意しました。プランター等で栽培される希望者に、NPO法人すぎなみムーサから2月23日(祝)から3月12日までの土・日・祝日の午後に博物館(本館)でお渡しします。ご来館をお待ちしています。

博物館古民家では今年も藍の栽培、イベント等を計画しており、夏には杉並区立永福図書館で藍染教室を予定しています。



杉並区立郷土博物館

企画展「すぎなみの消防史」

令和5年3月4日(土)～5月7日(日)

会場 郷土博物館 特別展示室

【時 間】9時～17時 【休館日】月曜日、第3木曜日

【観覧料】100円(中学生以下、障害者手帳提示の方およびその付添いの方は無料)、団体は20名以上で1名80円

昨年10月1日に杉並消防署は開署90周年を迎えました。

消防・防災組織は火災をはじめ、水害・震災などから地域社会を守る重要な役割を担い続けています。本展では江戸時代から現代にいたるまでの杉並区の消防の歴史をたどっていきます。江戸時代の火事に関する古文書や、現代につながる消防組織の変遷、実際に使用された消防用具を紹介します。



杉並消防組創立20年式典風景 大正4年頃



【お問合せ先】杉並区立郷土博物館 大宮1-20-8 03-3317-0841 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/histmus>

東京都杉並区大宮1-20-8

- × 震度5以上
- 震度5強以上

防災倉庫を見てもよう 防災関係まとめ 前編

いずみ 220 号から続けて掲載している防災関係のまとめを今号と次号でお届けします。

これまでは主に防災倉庫に備蓄されているものや防災 MAP についてのお知らせと、杉並区役所防災課のお仕事を取り上げてきました。

防災倉庫は必ず震災救援所に併設されています。震度 5 以上の地震が発生した際に震災救援所が開設されます。在宅で避難生活をされる方は在宅避難者登録をすることで、倉庫にある物資を受け取る事ができます。

今回は、救護活動の拠点となり、防災倉庫の管理をしている「震災救援所」についてお伝えします。

大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。 細心の注意を払い皆様に情報をお届けできるよう努力致します。